

環境調査結果のお知らせ

令和7年5月7日9時から野見湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なケラチウム属が最高で24 cells/mL確認され、**麻痺性貝毒の原因種であるアレキサンドリウム属が最高で100 cells/mL確認されました。**アレキサンドリウム属は二枚貝の毒化が想定される細胞密度に達していますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ケラチウム 属	珪藻	アレキサンドリウム 属
	(m)	(℃)		(mg/L)			
1 防波堤内側 (-) 【10:28】	0	19.5	25.6	9.2	2	-	10
	2	19.3	33.2	9.0	0	-	1
	5	19.2	34.0	8.4	0	-	3
	10	18.7	34.3	7.9	0	-	3
	底層 14	17.5	34.5	7.1	-	-	-
A ガラク (6.5m) 【10:14】	0	19.7	33.8	8.6	1	1,100	0
	2	19.4	33.7	8.7	0	1,550	0
	5	19.3	33.9	8.4	0	1,350	1
	10	18.6	34.3	8.0	1	650	1
	底層 14.5	18.0	34.5	7.6	-	-	-
B 勢井 (7m) 【10:38】	0	20.0	33.7	8.9	2	1,100	0
	2	19.8	33.8	8.9	0	1,350	0
	5	19.3	34.0	8.2	2	1,250	15
	10	19.0	34.3	7.9	0	160	4
	底層 18.5	17.5	34.6	6.8	-	-	-
C 馬の背 (6m) 【10:45】	0	20.2	32.0	8.9	0	2,400	3
	2	19.8	33.7	8.9	0	2,000	2
	5	19.3	34.0	8.5	10	950	14
	10	19.0	34.3	8.3	3	700	5
	底層 21	17.4	34.6	6.7	-	-	-
D 大室戸 (5.7m) 【09:52】	0	19.9	33.5	8.9	0	1,400	0
	2	19.6	33.5	8.9	1	2,200	3
	5	19.2	34.0	8.3	6	700	18
	10	18.9	34.2	8.2	0	60	2
	底層 19.5	17.3	34.6	6.8	-	-	-
E 白浜 (7m) 【10:02】	0	19.4	33.7	8.5	0	900	0
	2	19.3	33.7	8.4	0	1,950	1
	5	19.2	34.1	8.3	1	700	3
	10	18.6	34.3	7.8	6	200	10
	底層 16.5	17.6	34.6	7.2	-	-	-

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ケラチウム	珪藻	アレキサンドリウム
	(m)	(℃)		(mg/L)	属		属
F 大谷漁港内 (5.3m) 【11:00】	0	20.5	32.7	8.6	0	-	7
	2	19.9	33.7	8.7	0	-	2
	5	19.7	34.0	8.8	0	-	6
	底層 6.5	19.5	34.1	8.5	-	-	-
G 湾奥ブイ (6m) 【09:28】	0	20.0	33.6	8.8	3	1,550	11
	2	19.9	33.8	9.0	21	750	12
	5	19.4	34.1	8.9	24	1,600	100
	10	19.0	34.2	8.4	11	600	1
	底層 15.5	17.8	34.5	6.5	-	-	-
2 タンポ (6m) 【09:41】	0	19.7	33.6	8.5	0	-	2
	2	19.9	33.9	8.6	1	-	3
	5	19.4	34.1	8.6	5	-	40
	10	18.6	34.3	7.1	1	-	6
	底層 12.5	18.6	34.1	6.3	-	-	-

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※ 3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



1: 防波堤内側

A: ガラク

B: 勢井

C: 馬の背

D: 大室戸

E: 白浜

F: 大谷漁港内

G: 湾奥ブイ

2: タンボ